

古代都城と聖徳太子

— 小墾田宮・斑鳩宮・斑鳩寺 —

日時：平成26年7月16日(水) 16:30～18:00

会場：奈良女子大学
文学系 S棟3階 S327教室

報告者：鈴木 明子
(奈良女子大学古代学学術研究センター・協力研究員)

推古朝の小墾田宮は、それまでの王宮とは異なる画期的な構造をもつといわれる。

この小墾田宮と聖徳太子の斑鳩宮の造営、冠位十二階と十七条憲法の制定が非常に近い時期に行われていることから、宮の造営とこれらの政策の間には、何らかの関連のあることがうかがわれる。また、斑鳩宮と斑鳩寺は計画的に一对で配置されていたが、このような思想は飛鳥における小墾田宮と飛鳥寺の対の関係にも通じるものであり、後の王宮と寺の造営にも受け継がれていった。

聖徳太子の斑鳩には、あるべき古代都城のすがたが示されていたのではないかという視点にたち、十七条憲法の思想が小墾田宮や斑鳩宮、斑鳩寺の造営思想とどのように関連するのか、という問題を検討したいと思う。

事前申し込みは不要、参加費は無料です。
多くのみなさまのご参加をお待ちしています。